

第V編 施策の推進

計画の最重点ポイント

- 学生の確保に向けた「学びの環境」の充実
ー京都で学びたくなる「大学のまち」の仕組みづくりー
- 大学の国際化に向けた、優秀な留学生等の受入拡大と
国際社会に対応した人材の育成
ー留学生等の飛躍的な増加に向けた「広報」「支援」「交流」ー
- パワーあふれる「学生のまち京都」の実現
ー学生が持つエネルギーによる「京都力」の強化ー
- 産学公地域連携の推進による京都地域の活性化
ー産業・地域の活性化，研究成果の活用に向けた連携強化ー

(注)

取組主体における，コンソーシアム＝財団法人大学コンソーシアム京都
NPO等＝特定非営利活動法人や非営利団体をはじめと
する，市民活動団体等
地 域＝自治会・町内会等の自治会組織，地域の商店
街等及び地域住民

◎は，主に事業を実施・推進する主体，○は，協働・連携・参画する主体

学生の確保に向けた「学びの環境」の充実

●戦略ポイント

京都で学びたくなる「大学のまち」の仕組みづくり

- ◎ICTを活用した次世代型単位互換制度の構築
- ◎大学連携による教員・職員の能力向上の取組強化
- ◎伝統的な文化芸術等京都ならではの学習プログラムの開発・提供
- ◎大学施設整備の支援と誘導

国内外で学生確保に向けた競争が激しさを増す中、京都で学ぶ学生の維持増加を目指し、「大学のまち京都」の大学連携の強みを活かし、京都ならではの学習プログラムを開発することにより、**京都の大学で学びたくなる仕組みをつくり**ます。

そのため、「大学コンソーシアム京都」の事業の「選択と集中」を進め、**大学連携による「学び」の仕組みや機能の強化**を図るとともに、大学が集積する京都のスケールメリットを活かし、「大学のまち京都」の国内外への発信力強化に努めます。

また、1200年の歴史に培われた伝統的な文化芸術や技術はもちろん、最先端技術、京都国際マンガミュージアム等から発信される新しい文化に至るまで、伝統と進取の気風のなかで育ててきた個性・魅力を活用した、**京都ならではの学習プログラムの開発**を推進します。

取組の柱

- (1) 大学連携による「大学のまち京都」の競争力強化
- (2) 京都ならではの学習プログラムの開発・提供
- (3) 「大学のまち京都」の国内外への効果的な発信
- (4) 京都の景観を形成する大学施設の積極的な整備
- (5) 民間からの寄付による大学支援の促進

(1) 大学連携による「大学のまち京都」の競争力強化

京都の大学の国内外での競争力を強化するため、全国で初めて組織された大学コンソーシアム京都で培われた大学連携の力と経験を活かし、個別大学で実施が困難な分野や各大学に共通する課題・事業に取り組むとともに、各大学の運営を合理化し、機能強化を促進します。

そのため、単位互換制度の更なる充実を図るとともに、教員の教育力向上・職員の職能開発、同種事業の共同開催等を推進します。

<具体的な取組>

【取組主体】
◎コンソーシアム
○大学, 京都市

重点

①ICTを活用した次世代型単位互換制度の構築

各大学の持ち味を活かし、単位互換制度(*1)の内容・構成の魅力を更に高めるとともに、ICTを活用した次世代型の単位互換制度の構築を推進します。

【取組主体】
◎コンソーシアム
○大学, 京都市

重点

②大学連携による教員・職員の能力向上の取組強化

教員の教育力向上(FD:ファカルティ・ディベロップメント)や職員の職能開発(SD:スタッフ・ディベロップメント)等のプログラムを開発し、大学連携による教員・職員の質の向上のための取組を支援します。

【取組主体】
◎コンソーシアム
○大学, 学生

③大学間の連携・共同事業の推進

大学経営の効率化と事業効果の向上、大学間交流の促進のため、各大学がそれぞれに実施している様々な事業やイベント(多言語による弁論大会、研究発表等)の共同での開催・運営を促進します。

(*1) 単位互換制度: 他大学が提供する正規科目を受講することができ、それが自大学で単位認定される制度。

大学コンソーシアム京都の基幹事業のひとつ。

ちょっと注目

ICT活用が生み出す可能性!

ICTの活用は、OCW(P18)、eラーニング(P22)、遠隔授業等の手法を用い、授業の多様化、時間的・地理的条件の解消、広報発信など、様々な側面において、大学講義、生涯学習の発展が期待できます。

(2) 京都ならではの学習プログラムの開発・提供

京都の大学への志願者確保に加え、生涯学習環境の充実につなげるため、文化首都、学術研究都市、宗教都市、国際観光都市、多文化共生都市、環境先進都市、人権都市、更には、ベンチャーの都・ものづくり都市、そして「大学のまち」として京都が育んできた多様なストックを活かして、京都ならではの学習プログラムを創出します。

また、芸術系大学をはじめとする多様で個性豊かな大学が集積する京都の優位性と特長を活かし、京都の学びの魅力を広く発信します。

【取組主体】

◎コンソーシアム
○京都市、大学、学生、NPO等

<具体的な取組>

① 伝統的な文化芸術等京都ならではの

重点

学習プログラムの開発・提供

京都の伝統的な文化芸術（歌道、茶道、華道、香道、食文化、雅楽、邦楽、能、狂言等）や、新しい文化・技術（映像、マンガ・アニメなど新しいコンテンツ、ICT、先端技術等）を活かした、体験型学習の充実等、**京都ならではの学習プログラム**を開発・提供するとともに、各分野の第一人者によるプレミアムな講座の開設を検討します。

ちょっと注目



新しい京都の魅力、「マンガ」を世界へ発信！

日本は、マンガのメッカとも言われ、世界中から注目が集まっています。

京都市では、平成18年度に、京都精華大学と協働で、**京都国際マンガミュージアム**を設置し、国内外に向けて新しい京都の魅力を発信しています。

【取組主体】

◎コンソーシアム、京都市
○大学、学生

② 芸術系大学の集積を活かした情報発信

「芸術系大学コンソーシアム」の創設等により、市内に数多く集積する芸術系大学の連携・共同事業等の実施など、その力を結集するとともに、行政やNPO等と連携し、芸術創造都市としての国内外への発信力を強化します。

また、京都で活動する管弦楽団や市民合唱団、邦楽・雅楽関係団体、高等学校などとの連携を進めることにより、音楽文化創造都市としての魅力を高めます。

(3) 「大学のまち京都」の国内外への効果的な発信

様々な広報媒体や広報手段の活用により、京都ならではのプログラム等「大学のまち京都」の魅力を国内外へ発信・PRします。

<具体的な取組>

①高校生への広報・PRの強化

高校生を対象とした大学コンソーシアム京都が実施する高大連携事業を推進するとともに、高校生が利用するインターネットコミュニティ(*2)、携帯電話等、高校生に身近な広報媒体・手段を活用した広報・PR活動を展開します。

【取組主体】

- ◎コンソーシアム
- 京都市，大学

②修学旅行の誘致と修学旅行生への京都の魅力発信

学びの場として京都を選んでもらうきっかけとするため、今後とも、修学旅行生に対する優待制度や「京都修学旅行1dayチケット」等によるサービスの向上を図ることで、修学旅行誘致に努めるとともに、修学旅行生専用ホームページ「きょうと修学旅行ナビ」等を活用した京都のまちや大学に関する情報発信により、京都を訪れる小中高校生に、「京都のまち」と「京都の大学」の魅力を知ってもらう取組を推進します。

【取組主体】

- ◎京都市
- コンソーシアム，大学

ちょっと注目



きょうと 修学旅行ナビ

URL:<http://kyotoshugakuryoko.jp/>

修学旅行生の専用サイトでは、修学旅行に役立つ情報が満載！

- 京都の大学，キャンパス体験情報
- 優待施設を紹介する「京都修学旅行パスポート」
- 寺院・神社・文化施設，体験学習に関する情報

ちょっと注目

「京都修学旅行1dayチケット」

市バス・地下鉄などに何度でも利用でき、寺院、神社、施設等で優待が受けられるなど便利でお得な、修学旅行専用の一日本車券を活用し、京都と京都の大学の魅力発見！



【取組主体】

◎コンソーシアム
○大学, 京都市

③国内外への幅広い広報・PR

大学コンソーシアム京都のホームページをはじめ、様々な広報媒体を活用し、広く国内外への情報発信による広報・PRを展開します。

また、単位互換制度や京都でしか学べないプログラム等、京都ならではの学びのスタイルをOCW（*3）等の手法も取り入れ、インターネットを活用して発信します。

（*2）インターネットコミュニティ：インターネットを活用し、共通の関心分野、価値観や目的を持った利用者が集まって持続的に相互作用する場であり、様々な事業者等が提供するウェブサービスの総称。

（*3）OCW（オープン コース ウェア）：大学等で正規に提供された講義とその関連情報をインターネット上で無償公開すること。



（４）京都の景観を形成する大学施設の積極的な整備

新景観政策にも対応した「大学施設整備支援・誘導のためのガイドプラン」（平成20年度末改訂予定）により、京都のまちの景観を形成する大学施設の整備の積極的な促進を図るとともに、京町家等を活用したサテライトキャンパスや活動拠点等の設置を推進します。

【取組主体】

◎京都市

＜具体的な取組＞

①大学施設整備の支援と誘導

重点

新景観政策にも対応した「京都市大学施設整備支援・誘導のためのガイドプラン」（平成20年度末改訂予定）に基づき、周辺地域の景観やまちづくりに合った施設整備を進めます。

また、地域への開放を促進し、京都の景観やまちづくりに配慮するなどの良好な大学施設の整備に対しては、都市計画上の規制等の弾力的な運用や京都市の市有地の活用などを行い、大学施設の展開・立地を支援します。

【取組主体】

- ◎京都市
- コンソーシアム, 大学

②京都ならではのキャンパスづくりの推進

京都で学ぶ優位性と魅力を更に深めるため、町家等を活用したサテライトキャンパスの設置推進等、京都ならではのキャンパスづくりを促進します。

(5) 民間からの寄付による大学支援の促進

京都市では、新たな寄付金税制を活用し、大学に対して寄付をされた方の個人市民税の税負担を軽減することにより、大学に対する民間からの寄付を促し、大学振興を図ります。

【取組主体】

- ◎京都市
- 大学, 地域

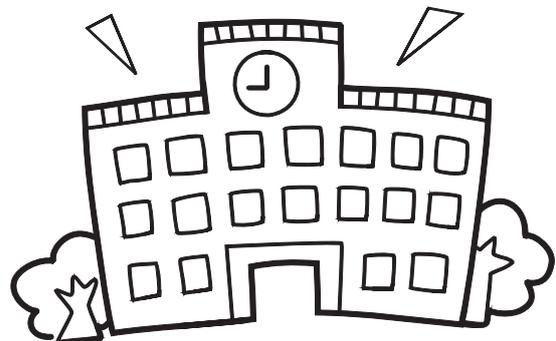
<具体的な取組>

①大学への寄付の増進

平成20年度税制改正により、国立大学法人、公立大学法人、学校法人等に対する寄付金(注1)のうち市町村が条例で指定(注2)したものを個人の市町村民税の寄付金控除の対象とできることとなりました。京都市では、この制度を活用することにより、京都の大学に対する寄付を促し、民間からの大学支援を図ります。

(注1) 所得税の寄付金控除の対象となるものに限りです。

(注2) 京都市では、寄付金を受領する団体からの申請に基づき、市民の福祉の増進に寄与する寄付金であると認められるものを指定します。指定された寄付金については、寄付をされた方が税務申告することにより、個人市民税から一定額が控除されます。



学生の確保に向けた「学びの環境」の充実

●各取組の主体

	主体						
	京都市	大学 コンソーシアム京都	大学	学生	企業	NPO等	地域
(1) 大学連携による「大学のまち京都」の競争力強化							
① ICTを活用した次世代型単位互換制度の構築	○	◎	○				
② 大学連携による教員・職員の能力向上の取組強化	○	◎	○				
③ 大学間の連携・共同事業の推進		◎	○	○			
(2) 京都ならではの学習プログラムの開発・提供							
① 伝統的な文化芸術等京都ならではの学習プログラムの開発・提供	○	◎	○	○		○	
② 芸術系大学の集積を活かした情報発信	◎	◎	○	○			
(3) 「大学のまち京都」の国内外への効果的な発信							
① 高校生への広報・PRの強化	○	◎	○				
② 修学旅行の誘致と修学旅行生への京都の魅力発信	◎	○	○				
③ 国内外への幅広い広報・PR	○	◎	○				
(4) 京都の景観を形成する大学施設の積極的な整備							
① 大学施設整備の支援と誘導	◎						
② 京都ならではのキャンパスづくりの推進	◎	○	○				
(5) 民間からの寄付による大学支援の促進							
① 大学への寄付の増進	◎		○				○

◎は、主に事業を実施・推進する主体、○は、協働・連携・参画する主体

大学の国際化に向けた、優秀な留学生等の 受入拡大と国際社会に対応した人材の育成

●戦略ポイント

留学生等の飛躍的な増加に向けた「広報」「支援」「交流」

- ◎大学の枠を超えた留学プログラムの開発
- ◎海外への発信力強化
- ◎留学生等への住宅に関する支援
- ◎世界の学生が交流する機会の提供
- ◎京都が好きになるきっかけづくり
- ◎留学生と日本人学生との協働・連携・交流の促進
- ◎日本人学生の海外への留学増加に向けた取組

京都の大学の国際競争力を高めるため、大学の教育力の強化と教育研究拠点としての機能の充実に加え、大学と京都のまちの国際化に向け、優秀な留学生や研究者等の飛躍的な増加に向けた取組を強化し、さらに、国際社会で活躍できる優秀な人材の輩出を目指します。

国の「教育振興基本計画」において、特に重点的に取り組むべき事項として掲げられている「留学生30万人計画」の実施については、平成32（2020）年の実現を目途に、留学生受入れを拡大させることとしています。京都市においても、「京都市国際化推進プラン」（計画推進期間：平成20（2008）年度～平成29（2017）年度）に掲げている留学生倍増（1万人）の目標実現に向け、本計画推進期間内（平成25（2013）年度内）において、重点的に取り組むとともに、卒業後に、我が国、とりわけ京都への貢献を期待し、①「留学生等に京都や京都の大学の魅力を知ってもらい、京都で学びたくなる働きかけ」②「京都における生活環境の支援」③「京都での豊かな留学生活の中で、京都を好きになる働きかけ」の3段階の施策を展開します。

また、大学の国際化を進めるため、日本人学生が国際社会で活躍できるよう人材育成に取り組みます。

取組の柱

- (1) 海外からの優秀な留学生等の増加に向けた取組
- (2) 留学生や研究者等への生活支援
- (3) 京都における生活を豊かにする取組
- (4) 国際社会に対応した人材の育成

(1) 海外からの優秀な留学生等の増加に向けた取組

京都の大学の国際化及び優秀な人材の集積のため、留学プログラムの充実、交換留学・姉妹校提携の推進、そして京都のまちや大学の魅力の発信により、留学生、外国人研究者等が京都の大学で学びたくなる仕組みをつくりまします。

<具体的な取組>

【取組主体】

◎コンソーシアム
○大学

重点

①大学の枠を超えた留学プログラムの開発

大学の枠を超えて、コンソーシアム間（大学コンソーシアム京都と海外のコンソーシアム）の留学プログラムを開発し、留学生を確保するとともに、より効果的な留学生受入体制を構築します。

【取組主体】

◎コンソーシアム
○大学、京都市

重点

②海外への発信力強化

京都の大学をPRできる海外イベント等におけるプロモーション活動、英語等のホームページによる留学生等への支援策や留学先を探す際に必要な各大学情報の発信、インターネットを活用したeラーニング（*4）による京都らしい講座の紹介等、世界への発信力を強化します。

【取組主体】

◎コンソーシアム
○大学

③単位互換制度の充実による英語等による授業の推進

留学生の受入環境の整備のため、大学における英語等による授業の推進及び多言語化の推進に向けた大学コンソーシアム京都における単位互換制度のプログラムの充実を図ります。

【取組主体】

◎コンソーシアム、
京都市
○大学

④海外留学生フェアを活用した交換留学制度等の推進

参加する海外の大学等に、京都の大学をPRし、海外の大学と京都の大学との交流を深め、交換留学制度構築、姉妹校提携推進等へつなげるため、各大学に対して、国際教育交流ネットワーク組織（E A I E（*5）、N A F S A（*6）等）の国際会議で開催される留学生フェア活用の働きかけをします。

【取組主体】

◎京都市
○コンソーシアム, 大学, 学生

⑤留学生や留学生OB・OGからの「ロコミ」ネットワークづくり

京都を留学先として選んでもらうため、京都市国際交流会館ホームページのメッセージボードの活用・発信等、留学生や留学生OB・OGからの「ロコミ」情報発信について支援します。

【取組主体】

◎京都市
○大学

⑥国際会議等コンベンションにおける大学の発信

国際会議等のコンベンションは、世界各国から政府関係者、学術研究者、企業、学生等が参加することから、戦略的にコンベンションの開催件数を増やし、参加者に京都の魅力を知ってもらうとともに、京都の大学を紹介し、優秀な人材確保につなげる機会とします。

(*4) eラーニング：コンピューター等、情報技術を用いて行う学習方法。特徴として、教室で学習を行う場合と比べて、遠隔地にも教育を提供でき、また、コンピューターならではの教材が利用できる。

(*5) E A I E (European Association for International Education)：ヨーロッパを拠点とする高等教育に関する国際組織。毎年開催される国際会議開催時に、Exhibition (展示会のようなもの) において、世界各国の高等教育機関や企業のブースが展開され、2,000名以上の高等教育の専門家が集まる。

(*6) N A F S A (National Association for Foreign Student Affairs)：1948年にアメリカで設立された、国際教育の推進に係る組織。150 箇国、3,500 組織、10,000 名近いメンバーからなる。米国、欧州、アジア、南米、アフリカの大学関係者により、大学教育・ビジネスに関する情報交換、テーマ別研修・会議を目的としたコンベンションが年1回開催される。

(2) 留学生や研究者等への生活支援

海外からの留学生や研究者とその家族が、京都で安心して満足な生活を送ることができるよう、住宅をはじめとする暮らしの支援に努めます。

【取組主体】

◎京都市
○大学、コンソーシアム、企業、NPO等

<具体的な取組>

① 留学生等への住宅に関する支援

重点

留学生や研究者等を受け入れるため、京都市の市有地を大学に有償で提供する等、大学と連携した住宅の整備や民間の住宅の活用促進につながる支援、短期滞在者向け住宅の提供促進を行うとともに、引き続き京都市の改良住宅の留学生への提供や英語等での住宅情報の発信等を推進します。

ちょっと注目



* P 5 8 参照

京都市国際交流会館

日本人も外国人も共に生きるパートナーとして互いに支え合う関係がつけられる拠点施設です。

事業紹介

○留学生就職支援事業（ジョブフェア等）
○国民健康保険料補助事業 ○留学生ホストファミリー制度 ○在住外国人のための生活相談 ○メッセージコーナーの運営（web版含む）○住宅フェアの開催やHOUSE naviの運営） など

【取組主体】
◎京都市
○コンソーシアム, 大学, NPO等

②海外からの留学生等とその家族への支援

京都で生活を始める留学生・研究者とその家族が、文化や風習の異なる日本の生活に早く慣れることができるよう、相談窓口の充実や日本語教育等の支援及び留学生等の生活を支援する組織のネットワーク化等を推進するとともに、その情報発信を強化します。

【取組主体】
◎コンソーシアム
○京都市

③留学生に対する就職支援

大学コンソーシアム京都のインターンシップ事業に留学生が積極的に参加できる仕組みを構築するとともに、京都で学んだ留学生が京都の産業界で能力を活かせるよう、就職を希望する留学生に対して機会を広げる取組の充実を図ります。

(3) 京都における生活を豊かにする取組

留学生がその能力を活かして京都で活躍し、帰国後には母国と京都との架け橋となるよう、京都における留學生活の充実と、京都を好きになってもらうきっかけづくりを推進します。

【取組主体】
◎京都市
○コンソーシアム, 大学, 学生, NPO等

<具体的な取組>

①世界の学生が交流する機会の提供

重点

留学生等の生活を豊かにし、京都のまちの国際化につなげていくため、「京都国際学生祭典(仮称)」や「京都国際音楽祭(仮称)」, 国際映画祭等、世界の学生が交流する機会を提供します。

【取組主体】
◎京都市

②京都が好きになるきっかけづくり

重点

留学生が、気軽に京都の様々な施設を見学・体験することにより、京都の文化芸術に親しみ、京都を好きになるきっかけとなるよう、京都市の元離宮二条城, 京都国際マンガミュージアムをはじめとする文化施設の一定期間無料入場や、コンサート等イベントへの招待等「留学生優待プログラム(仮称)」を創設します。

【取組主体】

◎京都市
○学生, コンソーシアム,
大学, NPO等

重点

③留学生と日本人学生との協働・連携・交流の促進

留学生のパワーと日本人学生とのパワーの結集によって活動が活発化し、国際的な発信の媒体になるよう、世界遺産元離宮二条城において、学生運営によるお茶会をはじめとする留学生との交流会開催等、学生の主体的な活動における留学生との交流を支援します。

【取組主体】

◎京都市
○コンソーシアム, 大学, 学生, NPO等

④京都の伝統的な文化芸術等の体験に向けた支援

留学生と日本人学生及び地域との交流を促進するため、書道、華道、茶道等京都の伝統的な文化芸術や音楽、絵画等を体験する活動を行う団体等の活動を応援します。

ちょっと注目

留学生優待プログラムとは？

- 京都国際マンガミュージアムや京都市所有の元離宮二条城, 京都市美術館等の文化施設等に無料で入場できる「留学生パスポート(仮称)」発行 (無料入場期間 8月及び2月)
 - 元離宮二条城における留学生交流会の開催
 - 京都市交響楽団定期演奏会等への無料招待
- < いずれも実施時期 平成21年度(予定) >

ちょっと注目

京都市国際化推進プラン

京都市では、更なる国際化の推進を目指し、「京都市国際化推進プラン」を、平成20年12月に策定しました。(計画期間：～平成29年度)
<国際化推進プランの目標>

- 世界がときめくまち・京都～世界の人々をひきよせる京都の魅力の向上と発信～
- 世界とつながるまち・京都～市民主体の国際交流・国際協力の推進～
- 多文化が息づくまち・京都～外国籍市民が暮らしやすく、活躍できるまちづくりの推進～

(4) 国際社会に対応した人材の育成

グローバルな視点を持ち、国際社会で活躍できる人材育成に向け、教育の質の向上に取り組むとともに、海外に留学した日本人学生が母国の魅力を伝えられるよう、京都の歴史や文化に関する教養を習得できるプログラムを開発します。

【取組主体】

◎コンソーシアム
○大学、学生

<具体的な取組>

① 日本人学生の海外への留学増加に向けた取組

重点

大学の枠を超え、コンソーシアム間（大学コンソーシアム京都と海外のコンソーシアム）での留学プログラムを開発し、日本人学生が安心して留学できる仕組みづくりを検討します。

【取組主体】

◎コンソーシアム
○大学、学生

② 海外の大学に対応できる学習能力構築

海外への留学を予定している日本人学生が、海外の大学の授業に対応できるよう、各大学及び大学コンソーシアム京都の単位互換制度において、能力向上につながる講座、英語等による講座の充実を図ります。

【取組主体】

◎コンソーシアム
○京都市、大学、学生、
NPO等

③ 伝統的な文化芸術等京都ならではの学習プログラムの開発・提供 **再掲 P16**

京都の伝統的な文化芸術（歌道、茶道、華道、香道、食文化、雅楽、邦楽、能、狂言等）や、新しい文化・技術（映像、マンガ・アニメなど新しいコンテンツ、ICT、先端技術等）を活かした、体験型学習の充実等、**京都ならではの学習プログラム**を開発・提供するとともに、各分野の第一人者によるプレミアムな講座の開設を検討します。



大学の国際化に向けた、優秀な留学生等の受入拡大と国際社会に対応した人材の育成

●各取組の主体

	主体						
	京都市	大学 コンソーシアム京都	大学	学生	企業	NPO等	地域
(1) 海外からの優秀な留学生等の増加に向けた取組							
①大学の枠を超えた留学プログラムの開発		◎	○				
②海外への発信力強化	○	◎	○				
③単位互換制度の充実による英語等による授業の推進		◎	○				
④海外留学生フェアを活用した交換留学制度等の推進	◎	◎	○				
⑤留学生や留学生OB・OGからの「口コミ」ネットワークづくり	◎	○	○	○			
⑥国際会議等コンベンションにおける大学の発信	◎		○				
(2) 留学生や研究者等への生活支援							
①留学生等への住宅に関する支援	◎	○	○		○	○	
②海外からの留学生等とその家族への支援	◎	○	○			○	
③留学生に対する就職支援	○	◎					
(3) 京都における生活を豊かにする取組							
①世界の学生が交流する機会の提供	◎	○	○	○		○	
②京都が好きになるきっかけづくり	◎						
③留学生と日本人学生との協働・連携・交流の促進	◎	○	○	○		○	
④京都の伝統的な文化芸術等の体験に向けた支援	◎	○	○	○		○	
(4) 国際社会に対応した人材の育成							
①日本人学生の海外への留学増加に向けた取組		◎	○	○			
②海外の大学に対応できる学習能力構築		◎	○	○			
③伝統的な文化芸術等京都ならではのプログラムの開発・提供再掲	○	◎	○	○		○	

◎は、主に事業を実施・推進する主体、○は、協働・連携・参画する主体

パワーあふれる「学生のまち京都」の実現

●戦略ポイント

学生が持つエネルギーによる「京都力」の強化

- ◎学生の活動を応援するプロジェクトの展開
- ◎世界の学生が交流する機会の提供（再掲）
- ◎京都の魅力に触れる学生生活への支援
- ◎学生と地域やNPO等との交流・連携の推進
- ◎卒業後の未来設計図を描くきっかけづくり

「大学のまち京都」は、「学生のまち京都」でもあります。京都の人口の約1割に当たる大学生，更には専門学校生等の**学生が持つエネルギーを高め，その力をはつらつとした京都のまちづくり，「京都力」向上，未来の京都づくりにつなげる取組を推進します。**

そのため，社会貢献等を行っている学生の活動が更に活発になるよう，活動拠点づくり，活動支援等，**「輝く学生応援プロジェクト(仮称)」**を創設すると同時に，これから活動に取り組む学生の力を高めるための施策として，リーダーシップ研修の実施や大学の垣根を超えた活動への支援，留学生との交流促進等を推進します。

また，学生が持つエネルギーが，京都のまちの活性化につながるよう，行政や地域との協働連携に向けた仕組みを構築します。

さらに，社会人になったときに求められる「人間力」を育てるため，職業教育プログラムの開発や，学生の雇用促進に向けた取組等，**学生が未来に希望が持てる施策を推進します。**

取組の柱

- (1) 学生の主体的活動への支援
- (2) 学生のエネルギーを「京都力」向上へつなげる取組
- (3) 学生の未来に向けた取組

(1) 学生の主体的活動への支援

「輝く学生応援プロジェクト（仮称）」や、日本人学生と留学生との交流促進等により、学生のパワーを高め、活動を活発にするための取組を推進します。

また、活動に役立つ知識習得や能力向上につながるプログラムを開発・推進します。

【取組主体】

◎京都市
○学生、コンソーシアム、大学、NPO等

<具体的な取組>

重点

①学生の活動を応援するプロジェクトの展開

京都のまちの活性化に学生のエネルギーを活かすため、京都学生祭典への支援、キャンパスプラザ京都等も活用した、学生の活動の拠点づくりや、「学生の日」の創設、キラリと光る学生、地道に社会貢献する学生等を応援するための表彰・支援等の「**輝く学生応援プロジェクト（仮称）**」を学生の参画のもと展開します。

【取組主体】

◎京都市
○学生、コンソーシアム、大学、NPO等

重点

②世界の学生が交流する機会の提供 **再掲 P25**

留学生等の生活を豊かにし、京都のまちの国際化につなげていくため、「**京都国際学生祭典（仮称）**」や「**京都国際音楽祭（仮称）**」、国際映画祭等、世界の学生が交流する機会を提供します。

【取組主体】

◎京都市

重点

③京都の魅力に触れる学生生活への支援

京都で学生生活をおくるうえでの魅力を高めるため、三大祭や京都・花灯路への参画等、学生が、京都の伝統的な文化に触れる機会を広げるとともに、各種施設が利用しやすくなるよう、京都市施設の学生割引推進と各種施設への働きかけを行います。

【取組主体】

- ◎コンソーシアム
- 大学, 学生, 京都市, 地域

④活動能力向上に向けた研修と大学間交流の促進

学生の主体的な活動を促し、その活動を継続的なものとするため、リーダーシップ研修等、学生の活動能力を高めるための取組を実施し、大学の垣根を超えた学生同士の大学間交流へとつなげます。

【取組主体】

- ◎京都市
- 大学, 企業

⑤学生の活動範囲を広げる仕組みづくり

駐輪場整備をはじめとする、交通における学生生活の利便性の向上を図る取組を展開します。

【取組主体】

- ◎京都市
- コンソーシアム, 大学

⑥多様な学生をサポートする体制整備

青少年活動センターを中心とした、青少年に対する自主的な活動の場やサービスの提供、京都若者サポートステーションにおける課題をかかえる学生への相談等、多様な青少年に関する事業を推進します。



青少年ボランティア活動の様子
～サンタクロースプロジェクト～

青少年活動センター

ちょっと注目

青少年の健全な育成と自主的な活動の促進の拠点として、市内7箇所に設置しています。

音楽スタジオやレッスンスタジオ等、青少年の創造的な活動を支援する施設の提供のほか、若者の意見を市政やまちづくりに生かす場づくりや青少年の社会参加を促進する事業を実施するなど、様々な取組を進めています。

* P 5 8 参照

(2) 学生のエネルギーを「京都力」向上へつなげる取組

学生の主体的な活動を推進するとともに、学生が持つエネルギーと自治会組織や商店街等の地域との協働を促進し、「京都力」の向上につなげます。

<具体的な取組>

【取組主体】

◎京都市
○学生，大学，コンソーシアム，NPO等，地域

①学生と地域やNPO等との交流・連携の推進

重点

学生と地域との交流促進に向けて、地域の祭りや行事への学生の参画を促進するコーディネート機能を構築します。

また、市民活動総合センターでは、学生がNPOや他の学生と交流できる場を提供します。

ちょっと注目

京都市市民活動総合センター

市民活動総合センターは、NPOやボランティア団体等による公益的な市民活動を、特定分野や領域を超えて、総合的に支援するとともに、市民の交流及び連携の促進を図るための拠点施設です。

市民活動総合センターの活用で、学生の活動のパワーアップが図れます。

* P58参照



【取組主体】

- ◎京都市
- 学生, コンソーシアム, 地域, NPO等

②学生主体の環境に関する取組との協働

自然と共生してきた京都のまちが, 持続可能な社会となるよう, 学生の主体的な活動の推進と, 環境共生型都市・京都の発展につなげていくため, 学生主体の環境に関する取組と京都市「DO YOU KYOTO?」プロジェクトとの協働の取組を推進します。

DO YOU KYOTOとは?

ちょっと注目



今, 世界で「DO YOU KYOTO?」は「環境にいいことしていますか?」という意味で使われています。

京都市では, 京都議定書が発効した2月16日にちなんで, 毎月16日を「DO YOU KYOTO?デー」(環境にいいことをする日)と定めています。

【取組主体】

- ◎京都市
- 学生, 地域

③学生の力を地域の自主防災につなげる仕組みづくり

京都学生消防サポーター制度を活用して, 学生の力を地域の自主防災活動に活かします。

【取組主体】

- ◎京都市
- 学生

④市政運営への学生の参画促進

京都市におけるインターンシップの積極的な受入れや, 学生向け事業に関する学生の意見・ニーズの反映等, 市政運営の企画・実施・評価等の各過程における学生の参画を促進します。

(3) 学生の未来に向けた取組

学生にとって大学生活は、今後の社会における活動のための、能力向上と社会経験の蓄積のための重要な期間であり、その学生の将来が輝かしいものとなるよう、職業教育の推進や京都の学生が京都のまちで活躍できる仕組みづくりを行います。

【取組主体】

◎コンソーシアム、京都市
○大学、企業、NPO等

<具体的な取組>

重点

①卒業後の未来設計図を描くきっかけづくり

大学卒業後の将来設計が描けるよう、産業界との連携により、インターンシップ・プログラム、アントレプレナーシップ（起業家精神）教育等の更なる推進と、新たな職業教育プログラムの研究・開発を行います。

【取組主体】

◎京都市
○コンソーシアム、大学、企業

②卒業後の京都における雇用促進に向けた施策の検討

京都の大学を卒業した大学生や大学院生等の能力を、京都で活かせる新たな仕組みづくりを検討します。

ちょっと注目



大学コンソーシアム京都のインターンシップ事業

大学コンソーシアム京都においては、「インターンシップ・プログラム」を、平成10（1998）年度より全国に先駆けて展開し、これまでに50の大学・短期大学から5,000名を超える学生が、就業体験を行い、また、延べ2,000を超える企業や行政機関、非営利組織（NPO等）にご協力いただいています。

パワーあふれる「学生のまち京都」の実現

●各取組の主体

	主体						
	京都市	大学 コンソーシアム 京都	大学	学生	企業	NPO等	地域
(1) 学生の主体的活動への支援							
①学生の活動を応援するプロジェクトの展開	◎	○	○	○		○	
②世界の学生が交流する機会の提供 再掲	◎	○	○	○		○	
③京都の魅力に触れる学生生活への支援	◎						
④活動能力向上に向けた研修と大学間交流の促進	○	◎	○	○			○
⑤学生の活動範囲を広げる仕組みづくり	◎		○		○		
⑥多様な学生をサポートする体制整備	◎	○	○				
(2) 学生のエネルギーを「京都力」向上へつなげる取組							
①学生と地域やNPO等との交流・連携の推進	◎	○	○	○		○	○
②学生主体の環境に関する取組との協働	◎	○		○		○	○
③学生の力を地域の自主防災につなげる仕組みづくり	◎			○			○
④市政運営への学生の参画促進	◎			○			
(3) 学生の未来に向けた取組							
①卒業後の未来設計図を描くきっかけづくり	◎	◎	○		○	○	
②卒業後の京都における雇用促進に向けた施策の検討	◎	○	○		○		

◎は、主に事業を実施・推進する主体、○は、協働・連携・参画する主体

産学公地域連携の推進による京都地域の活性化

● 戦略ポイント

産業・地域の活性化、研究成果の活用に向けた連携強化

- ◎ 京都ならではのものづくり産業の推進
- ◎ 大学と地域との連携促進に向けた取組
- ◎ 大学・研究者等の研究成果を京都の未来のまちづくりへ反映

ベンチャーの都・京都として、また、新産業・知恵産業を創出し続けるために、産学公特に大学・研究機関と産業界・行政との連携を強化し、**京都の産業を活性化し、雇用創出へとつなげます。**

京都ならではの伝統産業と先端産業の技法・技能の融合による「新たなブランド」の創出、大学等の研究機関を核に、地域内外の企業等も参画して技術革新を生み出すシステムの構築等により、京都ならではのものづくり産業の振興や、産学公連携による京都の経済の活性化を推進し、学生の雇用の創出につなげます。

また、大学と地域との連携を促進し、学生の実践・体験学習機会の提供、大学と地域との交流を推進することにより、学生の社会経験、「人間力」の向上、地域の課題解決やまちの活性化等双方にメリットをもたらす仕組みづくりを行います。

一方、小中高大（院）の連携を更に強化し、ネットワーク、システム構築、共同研究等により、各々の教育力を高めます。

さらに、産学公地域連携による学習プログラムや**知的資源を行政の施策に反映する仕組みづくり**を行います。

取組の柱

- (1) 産学公の連携により、京都の経済を活性化し、雇用を創出する仕組みづくり
- (2) 大学・学生と地域との連携の促進
- (3) 小中高大（院）連携の推進
- (4) 大学との連携による研究の推進と活用

(1) 産学公の連携により、京都の経済を活性化し、 雇用を創出する仕組みづくり

京都の経済の活性化と雇用の創出に向けて、伝統産業をはじめとする、京都特有の産業の振興や技術の継承、先端産業の振興、新産業・知恵産業等の「ものづくり産業」を産学公連携のもと推進します。

【取組主体】
◎京都市
○大学、企業

<具体的な取組>

重点

① 京都ならではのものづくり産業の推進

ベンチャー企業の育成や知恵産業の創出を図るため、「未来創造型企業支援プロジェクト」(*7)や「知的クラスター創成事業」(*8)の推進、「知恵産業融合センター」(*9)の創設など、産学公連携により京都ならではのものづくり産業を振興します。

【取組主体】
◎京都市
○コンソーシアム、大学、企業

② 産学公連携に向けたコーディネート機能の向上

産学公連携を具体的に推進するため、「京都産学公連携機構」(*10)での取組推進、成功例の情報発信、場や機会の提供等により、産学公連携のコーディネートの仕組みづくりを推進します。

【取組主体】
◎京都市
○大学、企業

③ 京都の「知」の財産を活用した技術の継承

芸術系大学が集積する京都の特性を活かし、伝統産業界との連携など産学公連携により、地場産業・伝統産業等の技術の後継者を養成します。

【取組主体】
◎コンソーシアム
○京都市

④ 留学生に対する就職支援 **再掲 P25**

大学コンソーシアム京都のインターンシップ事業に留学生が積極的に参加できる仕組みを構築するとともに、京都で学んだ留学生が京都の産業界で能力を活かせるよう、就職を希望する留学生に対して機会を広げる取組の充実を図ります。

【取組主体】

◎コンソーシアム, 京都市
○大学, 企業, NPO等

⑤卒業後の未来設計図を描くきっかけづくり **再掲 P34**

大学卒業後の将来設計が描けるよう、産業界との連携により、インターンシップ・プログラム、アントレプレナーシップ（起業家精神）教育等の更なる推進と、新たな職業教育プログラムの研究・開発を行います。

【取組主体】

◎京都市
○コンソーシアム, 大学, 企業

⑥卒業後の京都における雇用促進に向けた施策の検討 **再掲 P34**

京都の大学を卒業した大学生や大学院生等の能力を、京都で活かせる新たな仕組みづくりを検討します。

- (* 7) 未来創造型企業支援プロジェクト：専任コーディネーターの配置や研究開発補助金制度の創設により、ベンチャー企業の発掘・育成から認定・発展に至るまで、きめ細やかで一貫した支援を行う事業。
- (* 8) 知的クラスター創成事業：「知的クラスター」とは、大学等の研究機関を核に、地域内外の企業等も参画して技術革新を創出するためのシステム。現在、文部科学省では世界レベルのクラスターとして発展可能な地域として、「京都・けいはんな学研地域」を含め全国で9地域を指定し、重点的に支援している。
- (* 9) 知恵産業融合センター：京都地域の中小・ベンチャー企業等を対象に、様々な伝統産業と先端産業の技術を結集し、技法・技能の共有と融合を図り、新たな「京都ブランド」の創出と技術者の養成を行う組織。
- (* 10) 京都産学公連携機構：京都における産・学・公のあらゆる機関が相互に情報を共有しながら、連携と協働を進めるための基盤として、平成15年2月19日に設立された組織。

(2) 大学・学生と地域との連携の促進

大学が、地域を教育研究の実践・体験の場とすることで、京都のまち全体で学生を育てる仕組みをつくり、教育内容の充実と学生の人間としての成長につなげます。

また、地域にとっても大学と学生の力を課題解決につなげる機会として期待されることから、地域と大学の双方にとって有意義な連携を推進します。

<具体的な取組>

【取組主体】

◎京都市，コンソーシアム
○大学，地域

① 大学と地域との連携促進に向けた取組

重点

「大学地域連携モデル創造支援事業」を充実するとともに、地域連携に関する取組の進め方に関するガイドブックや成功事例の発信、ポータルサイト(*11)の設置等への支援等、大学と地域の連携を支援する取組を展開します。

ちょっと注目

大学地域連携モデル創造支援事業

京都のまちの活性化に向けて、大学・学生と地域住民との連携・協働を、更に広げるため、先進的な取組を「モデル事業」として認定し、助成金を交付するなど活動を支援します。



【取組主体】

◎コンソーシアム
○京都市，大学，地域

② 地域の課題解決につながる地域型教育の研究

NPO等地域の枠を超えた社会貢献活動も含め、地域の課題解決にもつながるサービスラーニング(*12)、フィールドワーク等の体験型学習を研究・推進し、地域との連携促進、地域の活性化、学生の「人間力」の育成につなげます。

【取組主体】

◎京都市
○大学

③ 地域や幅広い市民に身近な大学づくりへの支援

大学が、地域や幅広い市民にとって、身近な存在となるよう、図書館等施設の開放や生涯学習としての公開講座の開催等、市民に開かれた事業の促進のため、市の広報の活用等、大学の取組を支援します。

【取組主体】

◎京都市
○学生, 大学, コンソーシアム, NPO等,
地域

④学生と地域やNPO等との交流・連携の推進 **再掲** P32

学生と地域との交流促進に向けて、地域の祭りや行事への学生の参画を促進するコーディネート機能を構築します。

また、市民活動総合センター等、学生がNPO等や他の学生と交流できる場を提供します。

【取組主体】

◎京都市
○学生, 地域

⑤学生の力を地域の自主防災につなげる仕組みづくり **再掲** P33

学生消防サポーター制度を活用して、学生の力を地域の自主防災活動に活かします。

(*11)ポータルサイト：インターネットの入り口に相当する商用のサイトのこと。検索システムやリンク集、ニュース配信などのサービスを提供する。

(*12) サービスラーニング (Service - Learning)：社会の要請に対応した社会貢献活動に学生が実際に参加することを通じて体験的に学習するとともに、社会に対する責任感などを養う教育方法。大学教育と社会貢献活動との融合を目指したものとされている。

(3) 小中高大(院)連携の推進

京都市内には、特色ある取組を行い、全国から注目を浴びる公立学校に加え、数多くの私立学校が集積しています。大学(大学院)が、これら地域の小学校、中学校、高等学校、更には、保育所、幼稚園、総合支援学校等と連携することにより、保幼小中高大へとつながる教育についての研究やネットワークを構築します。

【取組主体】

◎コンソーシアム
○京都市, 大学

<具体的な取組>

①高大連携の強化

京都高大連携研究協議会(*13)を中心に、高等学校と大学が交流・連携を深め、高等学校と大学との教育をつなげるため、京都地域の教育体制の構築について研究します。

【取組主体】
◎京都市
○大学

②市立学校等と大学の連携推進

60を超える大学との協定のもと、大学と教育委員会や市立学校等が人的・知的交流をより一層進め、共同研究や教員養成・教員研修等に取り組めます。

また、大学が持っている先端知を活かし、NPO等も加えたネットワークで教材開発などを行う「大学発教育支援コンソーシアム」構想を推進します。

【取組主体】
◎京都市
○コンソーシアム，大学，企業

③産学公連携による教育システムの構築

初等中等教育についての産学公連携による「京都教育会議」を創設し、京都ならではの新たな教育支援システムを構築します。

ちょっと注目

「学生ボランティア」による学校サポート

現在、66の大学等と協定を締結し、1年間に約2,000名の学生がボランティアなどで、学校の教育活動支援に参画していただいています。担任の補助、学校行事、部活動等の補助をしていただいています。

また、教職を目指す多くの学生をインターンシップとして受け入れています。



(*13) 京高大連携研究協議会：生徒・学生の豊かな教養と人格を形成する人づくりを、京都の産・学（高校・大学）・公が一堂に会して、組織と組織による、面と面での連携によって京高大連携を実現して達成することを目的として、京都独自の京高大連携事業について様々な角度から研究・開発に取り組むために平成15（2003）年5月に発足。

(4) 大学との連携による研究の推進と活用

京都のまち全体がかかえる課題や京都の発展につながる研究を推進するとともに、研究成果を行政施策に反映するためのシステムを構築します。

【取組主体】

- ◎京都市
- コンソーシアム、大学、企業

<具体的な取組>

①大学・研究者等の研究成果を

重点

京都の未来のまちづくりへ反映

各大学・研究者等の研究ストックも含め、京都がかかえる課題や、京都の未来に役立つテーマ等についての調査・研究を推進し、その成果を市政や未来のまちづくりに反映させるため、「最先端研究知シンクタンク（仮称）」（*14）の制度設計を行います。

（*14）最先端研究知シンクタンク（仮称）：京都市の政策を対象に、大学や産業界等で活躍する新進気鋭の研究者からなるシンクタンクを設置し、政策課題について調査研究を行うことで、研究者が持つ最先端の研究知を市政各分野の今後の政策立案に活かし、実践する。

産学公地域連携の推進による京都地域の活性化

●各取組の主体

	主体						
	京都市	大学 コンソーシアム京都	大学	学生	企業	NPO等	地域
(1) 産学公の連携により、京都の経済を活性化し、雇用を創出する仕組みづくり							
①京都ならではのものづくり産業の推進	◎		○		○		
②産学公連携に向けたコーディネート機能の向上	◎	○	○		○		
③京都の「知」の財産を活用した技術の継承	◎		○		○		
④留学生に対する就職支援再掲	○	◎					
⑤卒業後の未来設計図を描くきっかけづくり再掲	◎	◎	○		○	○	
⑥卒業後の京都における雇用促進に向けた施策の検討再掲	◎	○	○		○		
(2) 大学・学生と地域との連携の促進							
①大学と地域との連携促進に向けた取組	◎	◎	○				○
②地域の課題解決につながる地域型教育の研究	○	◎	○				○
③地域や幅広い市民に身近な大学づくりへの支援	◎		○				
④学生と地域やNPO等との交流・連携の推進再掲	◎	○	○	○		○	○
⑤学生の力を地域の自主防災につなげる仕組みづくり再掲	◎			○			○
(3) 小中高大（院）連携の推進							
①高大連携の強化	○	◎	○				
②市立学校等と大学の連携推進	◎		○				
③産学公連携による教育システムの構築	◎	○	○		○		
(4) 大学との連携による研究の推進と活用							
①大学・研究者等の研究成果を京都の未来のまちづくりへ反映	◎	○	○		○		

◎は、主に事業を実施・推進する主体、○は、協働・連携・参画する主体

計 画 の 推 進

計 画 推 進 組 織

実施主体である、京都市、大学コンソーシアム京都、大学、学生、企業、地域、NPO等からなる「大学のまち京都推進会議」の機能を継承し、京都市と大学コンソーシアム京都とが協働で、計画の進行管理を行います。

事業の推進に当たっては、計画の推進状況の評価に、外部の視点や学生の意見を取り入れ、PDCA(Plan Do Check Action)のサイクルを構築し、十分成果が上がらない事業の見直し、新規事業の検討を行います。

キャンパスプラザ京都の広報・PR

大学相互の間及び大学と産業界、地域社会等との連携及び交流を促進する活動のために、京都市が設置した、「大学のまち京都」のシンボルである、キャンパスプラザ京都(京都市大学のまち交流センター)が、学生のみならず生涯学習の拠点ともなるよう、更に幅広い層に向け、広報・PRを強化します。

※財団法人大学コンソーシアム京都は、大学連携の力を活かし、キャンパスプラザ京都の管理及び事業の指定管理者として、平成18年度から5箇年、委託事務を行っています。

計 画 推 進 期 間

この計画は、近年の大学を取り巻く状況の変化のスピードを勘案し、平成21年度から5年間とします。